

会員懇談会

「北京オリンピック、そして2016年招致に向けて」

講師：竹田恆和氏（財団法人日本オリンピック委員会 会長）

20 08年最初の会員懇談会が1月18日、竹田恆和（たけだ・つねかず）日本オリンピック委員会（JOC）会長を迎えて開催された。今年はオリンピックイヤーであり、講演の中で竹田氏は、「金メダルは2桁、メダル総数で30以上が目標だ。『TEAM JAPAN』が一丸となって国民の期待に応えていきたい。皆さまの温かいご声援をお願いしたい」との述べ、北京五輪に向けた決意を披露した。講演後の質疑では、出席していた会員から激励や要望が相次いで出され、スポーツに対する関心の高さがうかがえた。以下、竹田氏の講演概要を紹介する。

■講演の概要

①JOCは、1991年に日本体育協会から独立し、現在は公益法人として活動している。JOCの活動は2つの事業からなる。ひとつは、オリンピック・ムーブメント*事業の推進であり、オリンピックはオリンピック・ムーブメントの頂点に位置付けられる。もうひとつは、選手の育成・強化と国際総合大会への日本代表選手団派遣である。選手の発



竹田恆和（たけだ・つねかず）氏は、馬術競技日本代表として1972年のミュンヘン五輪、1976年のモントリオール五輪に出場した。

掘・育成・強化は、競技にもよるが、最低10年はかかる。スポーツ界長年の悲願だったナショナル・トレーニング・センターが昨年12月に完成し、これからは、この施設で一貫指導体制による選手強化事業を進めていく。

②第29回五輪となる北京大会は、8月8日から17日間の日程で開催される予定だ。203の国と地域から約1万人の選手、約5,000人の役員が参加する。大会組織委員会は10万人のボランティアを予定しており、すでに80万人以上の申し込みがあったと聞いている。五輪開催に投じられる予算は約24億ドルだが、史上最高

の収益が出ると予想されている。

③バブル崩壊後、300を超える企業スポーツチームが休廃部となった。これ以上、アスリートの生活環境が悪化するのを防ぐため、JOCでは企業の社会的責任としてスポーツへの積極的な支援を行うという意識をより一層高めてほしいと考えており、皆さまにもぜひ、ご理解、ご協力をお願いしたいと思っている。

④1964年の東京五輪でわれわれが経験した感動を、次代の子どもたちにも経験させたいと考え、2016年のオリンピック招致に取り組んでいる。名古屋がソウルに、大阪が北京に敗れた日本にとっては、3度目の挑戦となる。東京五輪招致実現に向け、国際オリンピック委員会（IOC）の重要評価項目である国民の支持率を70%まで上げていきたい。国を挙げてのご協力をお願いしたい。



五輪出場経験のある選手を「オリンピック」と呼ぶ。懇談会後に開かれた懇親会では、7名のオリンピックが紹介され、会場を盛り上げた。

※オリンピックが目指す理想を理解し、その活動を広げる運動。その目的は、スポーツを通じて世界の平和の維持と国際的友好親善に貢献することにある。